

序 文

この報告書は、当研究会が日本労働研究機構の委託をうけて行った「若年技能員の職場定着過程に関する実証的研究 — 中京地区自動車産業の事例から —」の調査結果をまとめたものである。

近年の出生率の低下ともあいまって、中長期的に労働構成を見た場合、若年層の労働力率が減少傾向にあるなかで高校新卒者の製造業離れや中途退職が増加してきている。このような傾向が続くとすれば、日本経済の基幹を成す製造業の活力を将来にわたって維持していくことは極めて難しい事となろう。

こうした状況の中で若年層が再び製造業に魅力を感じ、職場に安心して定着していけるようにするためには、各企業労使は具体的にどのような方面に力を入れていく必要があるのか。このことを若年層の就労意識と離職願望ないし離職要因、及び具体的な若年層の退職理由を調査研究することによって明らかにしようと試みた。

調査にあたっては、現在の若年層のみならず、世代による意識の変化も確認するために各年齢層別にサンプリングを行いアンケート調査を実施した。また退職者については直接面接を基本に聞き取り調査を実施した。

調査結果の細部は本文にゆずるとして、全体を通じて明らかにされたことは、仕事そのものから面白さや充実感を得ることができるかどうか、あるいは職場で仕事を通じてもしくは仕事を離れて同僚・先輩・上司との良好な人間関係に恵まれるかどうか、こういったことが若年者の職場への適応に非常に重要だということであった。若年者は成長と自己承認への非常に強い欲求を持っている。われわれは製造業のステレオタイプのイメージにとらわれることなく、若年者が成長していると実感でき、周囲から人間として受け容れられていると実感できる職場および生活環境と人間関係を築き上げるように、従来からの努力を更にいっそう発展させる必要がある。

この報告書は、中京地区の自動車産業の事例研究をもとに一つの方向を提言したものである。各産業・企業の置かれた状況や環境に照らしたうえで、本報告書で明らかにされた実態や提言が少しでもお役に立てれば幸いである。

また、ご多忙にもかかわらず、この調査・分析に協力いただいた専門委員の方々、そして全体をコーディネートしていただいた先生方、アンケートにお答えいただいた皆様、ならびにこの調査をご支援いただいた日本労働研究機構に対して心からお礼申し上げる次第である。

1993年3月

財団法人 中部産業・労働政策研究会
理事長 梅村 志郎